
歴史小説～維新以降～真柄伯爵家の場合

蒼海颯爽

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

歴史小説／維新以降／真柄伯爵家の場合

【Zコード】

Z0675F

【作者名】

蒼海颯爽

【あらすじ】

名門の真柄伯爵家は誰もがうらやむ幸せな一家だったが少しの過ちと一人の女の野望により不幸のどん底に陥れられて・・・

其の壱～真柄伯爵家（前書き）

本小説は登場人物は実在の人物とは一切無関係ですが時代情勢や制度などは実際の日本にあったものを参考にしているので了承下さい。

其の壱～真柄伯爵家

持統暦エイジ90年、都内某高級住宅街にある由緒正しい伯爵の一家が暮らしていた。一家は真柄伯爵家という。

真柄家は中臣氏の支流で元は18万石の大名であった。その後69年に維新が起こり真柄家は伯爵になつた。

当時の当主は真柄基史といいまだ13歳の少年だつた。

その後王族である明治宮から淳子女王を妻に迎えて77年に長女由美子、79年に長男基博を儲けたのだつた。そして90年現在淳子は第3子を妊娠中だつた。

ところが基史は妻が妊娠中のためセックスが出来ず悶々としていた。そこで風俗に行つたのだがこのことが基史の人生はあるかそれ以上に由美子や基博、そして淳子が妊娠している子供の人生を大きく狂わせることになるとは誰も予想出来なかつた。

其の弟へ 真柄伯爵家（前書き）

基史は夕夏にだんだんはまつていった。やがて夕夏は本性を出して。
・

その女は頭も性格も悪く全身整形だったが性器だけはあらゆる男を魅了する名器で性技も完璧だった。

基史はいつのまにその女にはまり毎週のように通うようになった。その女は基史のことをただの上客としか思っていなかつたがある時基史が真柄伯爵家の当主だと知ると女は豹変して基史に思いつきアプローチしてきた。

女 菊池夕夏はやがて基史の子供を産みたいとねだるようになる。しかし基史は妻子がいるため困惑する。だが夕夏の願いについに折れてしまった。

夕夏は風俗を辞めて真柄家に女中として入った。

これに由美子と基博は不審がる。だが父親の手前何も言えない。そして家族が自分に何も言えないと知った夕夏は段々と悪女ぶりを發揮する。

まず自分以外の女中を全員解雇するように基史にねだり実際に解雇させた。

さらに夕夏は執事に嫌がらせをした。執事が基史に苦言を呈すると夕夏は執事を階段から突き落として植物人間にした。

そんな中淳子の産み月が近づくが夕夏は本妻の淳子にも嫌がらせをした。

淳子は自身が側室腹のため（少し前まで側室は珍しくなかった上年配の王族や華族には正式な側室を持つ人が沢山いた）側室に嫉妬嫉妬するはあるまじきことと教えられたのでただ黙っていた。

しかし夕夏は本当にどの馬の骨かわからぬ女なので世間から批判が出てきた。

夕夏のいじめはエスカレートしていき淳子から金田の物を密かに盗み食事も与えず家族がいない間に一畳ほどの納戸に監禁した。

一方由美子と基博は自宅に戻っても自宅に入れずやむ無く解雇され

た女中頭の家に行つた。

女中頭は殆どの資産を夕夏に奪われ六畳一間のアパートに暮らして
いた。唯一の資産は淳子から密かに渡された500万円しか無かつ
た。

本当だつたら田舎の大地主の娘で広大な土地を相続していくそれが
無くとも一生真柄家が面倒みるはずだつたのにそれも夕夏によつて
無くなりパート掛け持ちで毎日休みなく働いていたので二人は涙し
た。

其の参～真柄伯爵家（前書き）

淳子は何とか出産するものの命を落とす。遺された子供たちの運命は如何に・・・

其の参／真柄伯爵家

しばらくして淳子は陣痛が来た。しかし誰も助けてくれない。

その時、なんといきなり天井が崩れ落ちた。そして元女中三名がくの一さながらに天井から降りてきたのだった。

女中1（柿木紀美代）

「奥様大丈夫でしたか！？」

女中2（後藤美佐子）

「私たちが来たからにはもう大丈夫です！」

女中3（河内奈緒美）

「お嬢様（由美子）や若君様（基博）も来ております！」

淳子が天井裏に行くと由美子と基博がいた。一人

「母上様！」

淳子

「由美子に基博！」

こうして三人は久しぶりの対面を果たした。

しかし淳子には陣痛が来ている。淳子は直ぐに病院に運ばれた。だ

が、

医者

「かなり危険な状態です。万が一のことでも視野にいれてください。」

と医者に宣告された。

そして淳子は何とか男児を出産した。

次男は健康で基義と名付けられたが淳子は衰弱して一月後淳子は3人の子供と女中に見守られてこの世を去った。

享年32歳。早すぎる死だつた。

名門明治宮の王女として生まれ真柄伯爵家に嫁ぎ華麗な血脈の一端を担い、子供にも恵まれ幸せであつたが夫の少しの過ちにより夕夏の最初の犠牲者になつてしまつた。

本来淳子は宮様ながら武闘派の兄達の影響もありただのお姫様では

なかつたが平和な環境で普通の令夫人になつてしまつたかもしれない。

ちなみに淳子の父邦信には一人の正妃と12の側室との間に70人（！）の子供がいた。これはただただ驚くばかりである。

しかし生活が苦しいため伯爵レベルの家に嫁ぐ姫が多かつた。

真柄家も富家から正室を迎えるのは前代未聞で基史と淳子の結婚は子沢山と維新の産物だつた。

其の四～真柄伯爵家（前書き）

いよいよ夕夏が本性を出してきた・・・果たして三人の運命は？

其の四／真柄伯爵家

そして由美子と基博は久しぶりに真柄邸に戻ってきた。生後1ヶ月の基義と淳子の遺体を連れて。

その頃夕夏は高級ホテルのスイートルームで新聞を見ていた。

「真柄淳子伯爵夫人は元の名を千鶴宮淳子女王といい持統暦エイジ58年5月9日故明治宮邦信親王の第21王女として生まれ母は故啓子妃、生母は伊丹好子刀自であります。

夫人は幼少の頃より兄宮に政治のことを質問するなど聰明な姫宮として知られ、74年10月4日に真柄基史伯爵と華燭の典をあげて77年6月に長女由美子姫を、79年7月に長男基博君を、そして先月90年10月に次男基義君を出産しましたが産後の肥立ちが悪く今月12日に32歳の若さで逝去されました。

淳子夫人は政治や教育に关心があり・・・」夕夏

「あの女が死ぬなんて意外だけどラッキーだわ」

そして

夕夏

「これで夕夏タンの計画は順調に進められる

と夕夏は部屋をあとにした。

そして淳子の葬式が執り行われたのだが何と夕夏は平然と葬式に参加した。

これには由美子と基博は激怒した。さらにマスコミの間でも夕夏の存在は話題になつた。

しかし夕夏はそれを逆手にとり何と記者会見を開きマスコミの前で婚姻届を書きテレビカメラで提出の様子を撮影させた。

一方基史は体調を崩し由美子たちは基史の叔母（父の妹）の柴田厚子女官長に引き取られた。ところが三人が出かけている時に何と夕夏は厚子と一人娘の理恵を誘拐した。

理恵は何とか自力で脱出して柴田邸に戻つたものも三人を連れ去つ

たという張り紙が張つてあつた。
厚子も自力で脱出して実家でもある真柄邸に行つたものも入れなか
つた。

其の伍～真柄伯爵家（前書き）

夕夏はとうとう本気を出して真柄家以外の人にも危害を加えはじめ
る。そんな中基史が謎の死を遂げる・・・

三人は夕夏によつて強制的に真柄邸に戻されたが奴隸のような扱いを受けさらに食事も与えられず基義は発育が遅れぎみになり由美子と基博は給食を失敬するほどだった。

しばらくして由美子に野澤伯爵嗣子結婚話が持ち上がりつてきた。

これに夕夏は激怒して結婚話を全力で阻止しようとしてさらに野澤邸を放火して野澤伯爵嗣子以外の家族を全員焼死させた。

それでも一人は結婚したので夕夏は野澤伯爵（父が焼死してあとを継いだ）が勤めている超大企業を倒産させて国を不景気にした。それが逆に功を奏して基博と基義は真柄邸を脱出することに成功して厚子の元に帰ることが出来た。

ところが理恵の夫で婿養子の柴田子爵が夕夏の運転するトラックに轢き殺されたのだった。

理恵には麻美、郁美、愛美の三人の娘がいたが息子はいなくて断絶の危機になつたが厚子の妹中村恵理子の次男俊周を理恵の養子にして麻美と婚約させた。ところが夕夏は俊周に義母で従姉でもある理恵をそそのかすように脅した。

当時理恵は25歳、俊周は16歳、麻美はまだ4歳。

俊周は若い性欲に負けてしまい遂に理恵を押し倒した。

理恵は最初は拒否していたが一度絶頂を迎えるに夕夏に怪しい薬を飲まされたせいでセックス狂いになりとうとう妊娠までしてしまつた。

これには厚子と恵理子はショックを受け体調を崩した。そして理恵は俊周の娘歩美を出産して大スキヤンダルになつた。

そんなさなか基史（41）は突然不審死をとげたのだった。

全ての発端は七年前基史が淳子の妊娠中に風俗に行つたことから始まつた。しかしなぜか誰にも恨まれず叩かれたこともなかつた。

三人の子供も基史を恨んだことは一度も無いしマスコミも叩くのは

夕夏ばかりだつた。

基博は友人などから

友人

「これでお前が伯爵になつてあの女とその子供を追い出して元の真柄家にすることが出来るよ」

と言われて本人も周囲もその気になつていた。

其の六、真柄伯爵家（前書き）

基博は跡を継げず生活のために夜の町に身を落とす。一方夕夏は本格的に真柄家を崩壊させる。そして典子が遂に・・・

其の六、真柄伯爵家

ところがしばらくして基史の弟基量の妻有希子が26歳の若さで急死した。

それを知った夕夏は基量を誘惑して何と再婚禁止区間が明けた日に基量と再婚した。そして基量が跡を継いだ。

一方柴田家は女官長で柴田家の稼ぎ頭の厚子は体調を崩したままで夕夏にそそのかされたまだ学生の俊周が毎年のように主婦の理恵に出産させて経済的に苦しくなり基博と基義は自活を始めた。しかし真柄家自体は裕福なので奨学金を受けることも出来ず基博は必死にバイトに励んだ。

さらに基博一人ならともかく基義もいるので経済的に苦しく基博は金持ち男を相手に体を売つた。

基博はたちまち人気になり収入も増えたが性病を移されて仕事を断念してまた経済的に困窮した。

その頃基量と有希子の一人娘典子は夕夏とその娘により奴隸扱いされていた。

夕夏の娘は顔も頭もかなり悪かったが性格はそれ以上に最悪だった。そんな中夕夏は中学生の典子を7-6歳の成金に嫁がせよう計画した。

それを知った典子は有希子の遺影と貯金通帳と実印を持つて基博たちのところに逃亡した。

夕夏は激怒して典子を見つけ出して裁判で訴えようとしたが夕夏に非があるのは明らかで初めて夕夏は泣き寝入りした。しかし夕夏はただでは起きない。

そんな中夕夏は基量の叔母たちが姉妹の中の誰かの家に集結すると聞いた。そこで夕夏は基量の叔母8人の追跡をすることにした。そして夕夏はある事を計画する。その計画に夕夏は不審な笑顔を見せるのだった。

其の七、真柄伯爵家

基史・基量兄弟の父親故真柄基延には8人の妹がいた。

長女孝子、次女厚子、三女光子、四女幸子、五女智香子、六女恵理子、七女雅子、八女道子である。

いずれも生母は正室の頼子だった。

この頼子、相当なやり手の女傑で明治宮家の娘の淳子が真柄家に嫁いできたのも頼子の力だった（ただし結婚前に頼子死亡）。しかしこの頼子が今の真柄家の没落のきっかけを作ったのも過言ではなかった。そんな中夕夏の祖母が亡くなつた。

今まで夕夏は天涯孤独で本当にどこに馬の骨かわからなかつたとされていたが実は家族がいた。

しかしそれをひた隠しにするのはある深いわけがあった。

夕夏は母親の重と祖母の節と三人でくらしていた。しかしその祖母には秘密があった。

夕夏の曾祖母菊池松江は浜松町家（のちの伯爵）の女中だった。しかし女中とは名ばかりで実際は先代の妾で子供までいた。しかし松江には間男がおりさらに次々と男と寝るふしだらな女だったため子供の父親は誰だかわからなかつた。

さらに松江は現当主つまり前当主の息子や前当主の娘婿とも関係を持つていた。

こうして松江は毎年のように父親の違う子供を産んでいった。

男どもは夕夏の名器に魅了されて何も疑わなくなつたが女、特に前当主の娘は違つた。

だがある娘が父親たちに忠告したが聞く耳を持たなかつた。それどころが娘は絶縁させられてしまつた。

だが別の娘真柄頼子は諦めない。

ちょうど妊娠のため知り合いの病院に通院していた頼子はその知り

合いに頼み込んで浜松町家で健康診断を開くことにした。
そして何と驚くべき結果が出た。だがそれは病気のことではない。

其の八 真柄伯爵家

松江の8人の子供のうち5人は先代当主の子でなくて他は娘婿の子や家臣の子、さらには出入りしていた工事業者や隣町の少年、あげくの果てには数年前話題になつた死刑囚の子供までいた。しかもその死刑囚の子供以外は皆知的障害であつた。

これには浜松町家に大打撃を与えたが頼子は心底晴れやかで姉の仇をとつたと思つた。

頼子

「さてこれからどうじよつかしら……でもこれ以上やると私が悪女扱いになるし……」

基延

「それならいつそのこと稀代の悪女になればいいじゃん」

頼子

「いつのまにかここにいたの？」

基延

「しかし母上があんなことまでするとはさすがの俺でも驚きだよ」

頼子

「ちょっと基延まで……最近私本当に悪女扱いされはじめているんだから」

基延

「まあうやむやなことがほつきつしてよかつたじゃない」

頼子

「それは……」

基延

「あいつらの大半がお祖父様の子じゃないと判明した時の母上の心の底からの笑顔、本当によかつたよ」

頼子

「基廷これ以上およしなさい」

基廷

「しかし節がある死刑囚の子供だったなんて驚きだよ。やっぱ極悪人の血は違うね。節なんてテストなんて常に学年最下位でそれなのに一切勉強せず同級生や年下の女の子から恐喝したり階段から突き落としたり根性焼きをしたり先公どももお手上げで、ほら去年担任が途中で変わったけどあれは担任が節にいじめられて鬱病になつて休職したからだよ。最近節は子分を連れてしおりちゅう職員室を襲撃して大変なんだから」

「この節は夕夏の祖母である。

頬子

「じゃあ歴代の校長の写真を粉々にしたのも本当なの？」

基廷

「本当。でもあの校長定年直前でみんな田に遭つて可愛そつだつたな」

頬子

「それよりあんなのが叔母で基廷の学校の立場は大丈夫なの？」

基廷

「俺達兄弟がいなかつたらあの学校は破滅しているよ。むしろ俺達より母上達兄弟とお祖母様に同情が集まつていいよ」

頬子

「確かに大変そうだけどあの女の他の子供の評判は？」

基廷

「他は皆特殊学級か養護学校だよ。てか母上だつてあいつらが頭弱いことしつているだろ」

頬子

「あ、すっかり忘れていた。しかしどうやってあの女達をどうしようかしら」

基廷

「裁判起こして永久追放だよ」

頬子

「何もせこままでしなくても・・・」

基廷

「いやそれでも甘いぐらー」

頬子

「・・・わかった。裁判で永久追放にするから」

基廷

「これこそが俺の母上にふさわしい」

頬子

「ふさわしいも何も基廷を産んだのはこの私なんだから」

基廷

「じゃあ俺ちょっと出かけてくるからね」と基廷は家を出でいった。

頬子

「はあ・・・これこそ私が永久追放されそうな勢いだわ・・・一体どこで子育てを間違えたのかしら・・・いや、成功し過ぎた?..どちらにしても我が息子ながらおそしき・・・」
こうして松江とその子供たちは永久追放された。頬子は悪女と呼ばれるのを懸念していたが女傑として名を轟かせることになり安心した。

其の九、真柄伯爵家

それからのこととは周知の通りである。

話は戻るがその田川女光子の家に姉妹全員が集まっていた。

智香子

「本家の典子ちゃん貯金通帳と印鑑を持つて基博君のもとに逃亡したらしいわよ」

道子

「あの貯金通帳には1500万円が入っていたらしいから盗まれない限り生活に困ることはないわね」

幸子

「でも真柄家には数百億ぐらい資産があつたはずなのよ。典子ちゃんがいついていたけどあの女毎年数億も無駄遣いするらしいのよ」

恵理子

「月千円の小遣いだつた私たちの立場は一体何なのー」

孝子

「恵理子、ちょっと話の焦点が違うわ」

厚子

「しかしあの女が菊池松江の曾孫とは驚いたわ」

雅子

「菊池松江?」

孝子

「ちょうど厚子が生まれた頃だつたはずだけど浜松町のお祖父様には菊池松江という妻がいて何人も子供がいたの。ところが母さんは松江を疑つて健康診断の名目でDNA鑑定したの。すると大半が不倫の子供ということが判明したの。

それで兄上が母さんをけしかけて松江とその子供たちを追い出したの。その中のこないだ亡くなつた菊池節が兄上の同級生になるわけ」

道子

「孝子姉ちゃんでもまだ小さかったはずなのに随分詳しいね」

厚子

「私たちが小さい頃嫌になるほど兄上から話を聞いたの」

雅子

「それで母上と菊池節は姉妹なの？」

孝子

「まさか。菊池節なんて死刑囚の娘だったんだから！」

恵理子

「し、死刑囚！？」

厚子

「そう。それも連續強姦殺人事件の」

幸子

「連續強姦殺人・・・」

孝子

「兄上の話だと菊池節は女子小学生だったのにも関わらず極悪人だつたらしいの」

その時、外から光子の悲鳴が聞こえてきた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0675f/>

歴史小説～維新以降～真柄伯爵家の場合

2010年10月11日18時08分発行